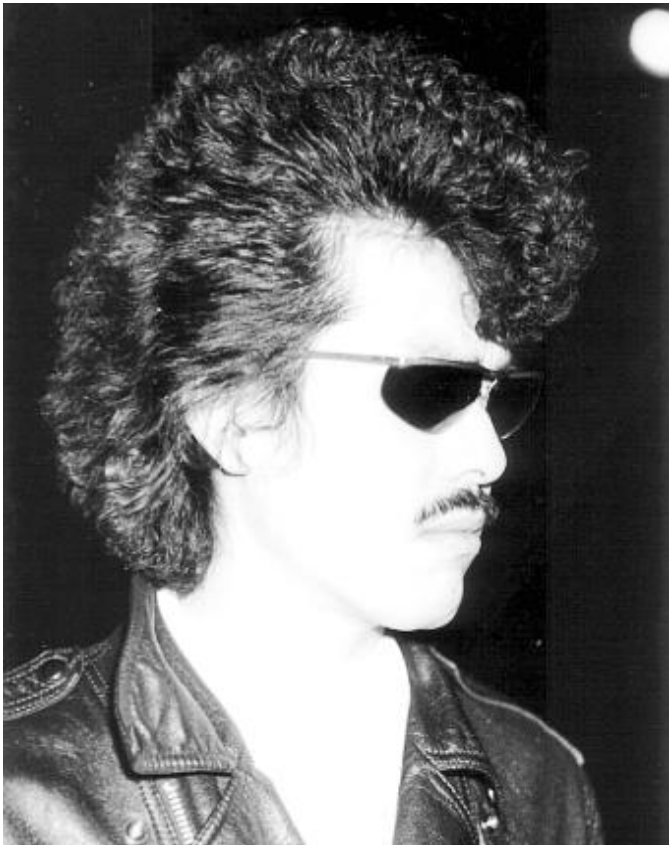


# TAKUの 我行我素

いつもみんなありがとう！



いきなりで何なのだが、俺の個人サイト「Area-TAKU (<http://www.area-taku.com/>)」のトップに、こんな言葉を載せてある。『欲しいと感じたものはすべてロックンロールに潜んでいた。それが横浜銀蠅だ。俺にとってロックンロールは、一時的な流行やトレンドではなく人生そのもの。きっとみんなも、俺達と一緒にそれぞれの青春や人生、ひとコマひとコマにロックンロールを刻んで生きてきたと思う。だから、横浜銀蠅はメンバー3人だけじゃないんだ。日本中に青春や人生、時代を共に歩んだ何万人もの銀蠅達がいる。みんなロックンローラーだ。こんな、言葉で表現できないほどの存在・・・これが仲間なんだと思う。いつまでもあの日の眼と心で、一緒に走り続け

ていこうぜ。 TAKU』

15の時にロックンロールの洗礼を受けそれ以来ずっと、ロックンローラーに憧れ、ロックンローラーを夢見てベースを抱いて40年やってきた。



それは嘘も偽りも打算も虚栄もないありのままの俺の気持ちなんだけれども、ここへきて、というか55歳を迎える手前にきてやっと重要な事柄に気がついた。実は、俺自身はロックンローラーではないのだ。そう、きっと俺はロックンローラーではない。誤解を招かないように説明すると、だからこそロックンローラーに憧れてるんだな… ということ。だってさ、もし俺が正真正銘のロックンローラーだったのならば、ロックンローラーに“憧れる”であろうか？すでにそうならば憧れるわけないでしょ(笑) 憧れる対象ってのは、いまだ手の届かない所にあるモノやコトなのだから。パイロットに憧れてる少年が、もし念願かなってパイロットになれば、もうパイロットは憧れの対象ではなくなるはずでしょ。ベテランと呼ばれる年齢になって正直俺自身も、今まで一端のロックンローラーのつもりでいたし、まわりもそう持ち上げてくれる場面も多かったのだが、つい最近、ある出来事があって気がついた。



俺はロックンローラーに憧れてる少年のまま  
なだけだったことに。つまり裏を返して俺はい  
まだに、というか永遠にロックンローラーじゃ  
ないってことにも気がついたわけだ。  
とは言いながらも、もちろんベーシストとして  
は、永ちゃんが琵琶ベース抱いて俺の横で  
「Funky Monkey Baby」を歌い出さないかぎり、

誰にも負けない日本一のロックンロールベー  
シストだと自負しているし、ミュージシャンと  
してもバンドマンとしても、誰にも恥じること  
なく取り組んできたと思っているし、これから  
もそうして行くつもりでいる。

まあとにかく、残念ながら俺はロックンロー  
ラーではない。あれだけ憧れ、あれだけ夢中にな  
ってやってきたつもりでいたけど、でも違って  
いた。あ でもこれ、悪い意味で言ってるんじ  
ゃないんだよ。単純にどんな『人種』かって話  
なだけなんだから。人間になれなかった妖怪人  
間と一緒に意味(笑) もっと具体的に言うと、  
ブラックミュージックにどんなに憧れても  
一生ブラザーになれないのと似ているのかも  
しれない。俺なりのロックンローラーとは、結  
局ライフスタイルのことなんだと思う。ただ普  
通に道を歩いているだけで、車を流しているだ  
けで、周りから観たらひと目でそれとわかるよ  
うなっていうか。という  
わけで…だから今でもす  
べてのロックンローラー  
は俺の憧れだし、俺のヒ  
ーローなんだよ。

TAKU